

麦の収穫に向けての技術対策

1 すでに病害虫防除を実施し、大きな障害は認められないが、生育の遅延しているところや防除後 1 週間以上経過しているほ場では「赤かび病」の発生が懸念される。生育後半に多発することもあるので、気象条件や耐性菌問題を考慮し、適正防除を行う。

2 雑草が目立つほ場があるので、収穫前に刈り取り、ほ場外に搬出し、乾燥させて焼却する。

特に白花のキク科雑草「イヌカミソレ」は、繁殖力が旺盛で、コンバイン収穫時に「イヌカミソレ」の茎水分が粒水分に移るので、早めに刈り取る。

3 収量予測を行い、コンバインの運行計画や乾燥施設の稼働計画を建て、曇雨天が予想される場合には、予備乾燥（ビニールハウス等）ができるように準備する。

4 出穂後の低温、日照不足により開花が長期にわたったほ場があるので、登熟状況の把握には十分留意する。

なお、「ホクシン」は、成熟期が「ホクコムギ」より 4 日程度早いので、水分の推移を的確に把握する必要がある。

5 全般的に良好な生育で、平年並以上の収量が期待できるが、出穂 40 日以降に粒水分を測定し、粒水分 35 パーセントから試し刈りを行い、青未熟粒や圧扁粒の発生がないことを確認する。粒水分が 30 パーセント程度になったら本格的に収穫を開始する。30%前後の粒水分時には、乾燥の効率化と高品質化のために、二段乾燥を積極的に活用する。

6 ほ場により成熟が均一でない場合があるので、部分刈りを積極的に取り入れ、生育の遅れた部分や雑草の混入した部分、倒伏した部分などは、別刈りとし、良質麦に混入しないようにする。

7 乾燥の効率化を図るため、予備乾燥、実干しや二段乾燥を積極的に活用して、良質麦生産に努める。

8 原採種小麦は、最終的な異型・異品種・病株の抜き取りを完全に行ない、適期収穫は勿論、コンバイン・乾燥施設の清掃等さらには乾燥温度に注意し、発芽率の高い種子小麦となるように調製する。

9 本年は、「ホクシン」が「チホクコムギ」等と、収穫時期が重なる場面があると予想されるが、適期収穫に努め、刈り取り品種が変わる時には、コンバインや乾燥施設の清掃をしっかりと行い、混麦しないよう注意する。

10 春まき小麦も、良好な生育である。収穫時期も平年より1週間程度早く始まると予想されるので、今後は赤かび病の防除を徹底し、秋まき小麦同様適期収穫に努める。特に良質麦生産のため、二段乾燥を積極的に推進する。